

No.69 シリーズ 教育の窓

生き生きと
学ぶ生徒を
育成するため…

八百津中学校

1.はじめに

八百津中学校では、八百津町の教育課題を受け、平成28年度より、2ケ年にわたり授業改善の研究を進めてきました。9月22日(金)、これまでの研究成果を確かめるために、三年生の保健体育の授業をもとにして、「全校研究会」を開催しました。今回は、この全校研究会の様子を紹介することで、本校の研究の成果についてお伝えします。

2.「主体的」で「対話的」な学びをめざす理由

■平成29年度の研究主題

「生き生きとどんな学びを生徒の育成」

→主体的で対話的な深い学び

昨年度までは、国や県の学習状況調査をもとに指導改善を行ったり、生徒の「つまずき」を事前に予想した授業展開の工夫を行ったりしてきました。しかし、個々の生徒への手立てを打つことで、場合によっては、生徒が、授業に対して「受け身」な姿になることもありました。

そこで、本年度は、上記のような研究主題とし、時として受け身だった授業の様子から生徒が主体的

に学習に臨めるようになれば、時間を有効に使い、より学習内容の定着が図れると考えました。また、仲間とともに主体的に学び合い、自分たちで学んだことを生かして表現する場をたくさん位置づけることができれば、学習内容をより効果的に身につけるとともに、仲間関係の醸成が図れると考えました。

3. 三年保健体育科「マット運動」の授業から

(1) 主体的な学びを支えるために



授業の初めには、ゴールの姿を明確にイメージできるようにするために、「できている」映像と「できていない」映像を比較してポイントを自分たちで気づけるようにしました。

また、グループの計画会では、生徒自身に授業の「視点」を考えさせるようにしました。



こうした工夫により、1時間の授業を通して主体的に活動に取り組む姿を生み出すことができました。

(2) 対話的な学びを支えるために

「側方倒立前転」の練習を、グループの仲間どうしで援助し合って進めました。個々の課題に沿って必要な器具を自分たちで選択して練習を進めました。

グループの練習の中で伸びた生徒の姿を動画としてタブレットパソコンで撮影しサーバーに「投稿」しました。



投稿した動画を見ながら「中間研究会」を行い、後半の練習の進め方を考えました。

こうした工夫により、1時間を通して、生徒同士が常に対話をしながら練習をすすめる姿を生み出すことができました。

(3) 定着状況を見届けるために

技能の評価は、タブレットパソコンを使って行いました。授業の初めと終わりの評価の比較や、学級全体の定着状況を瞬時に見届けることができました。

授業の終わりには、グループでの練習の成果を「投稿」した映像等をもとに発表しました。

4. おわりに

10月20日(金)には、こうした研究の成果を町内小中学校の先生や関係者の方を対象にした公表会を実施します。よろしくお願ひします。

